

# 7月の米雇用統計は市場予想を上回る強さ

## ポイント① 米労働市場の逼迫は継続

8月5日に発表された7月の米雇用統計によると、非農業部門就業者数は前月比で52.8万人の増加となり、市場予想を大幅に上回りました。業種別では、娯楽・ホスピタリティ業など幅広い分野で増加しました。一方、失業率は3.5%と前月より低下し、就業者数と失業率が共に新型コロナウイルスの感染拡大前の2020年2月の水準まで回復しました。また、平均時給の伸びは、前年同月比+5.2%と賃金上昇圧力が依然強く、労働市場の逼迫が継続していることが示されました。

## ポイント② 労働需給には変化の兆しも

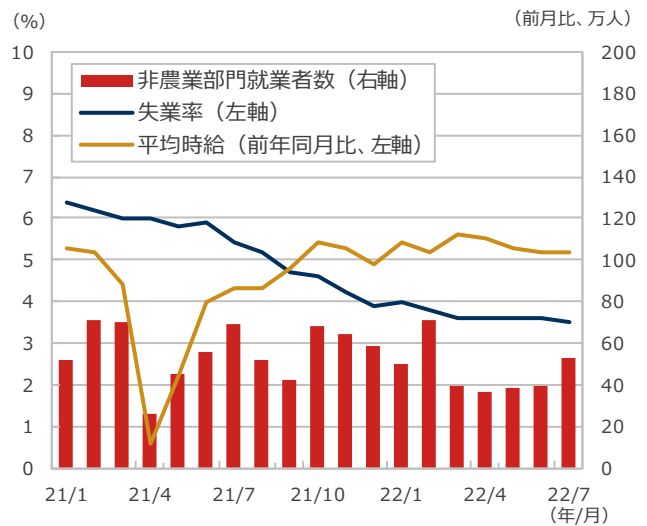
2日に発表された6月の米雇用動態調査では、求人件数が3か月連続で減少し、特に小売業での減少が目立ちました。依然高水準ではありますが、一部産業の労働需給に変化の兆しが見られます。

また、景気の動きに敏感に反応すると言われる米新規失業保険申請件数が、増加基調となっています。景気先行き不透明感などから、住宅や小売、テクノロジー業で人員削減が検討されている様であり、広範囲な業界への広がりには注視が必要です。

## ポイント③ 9月も大幅利上げ継続か

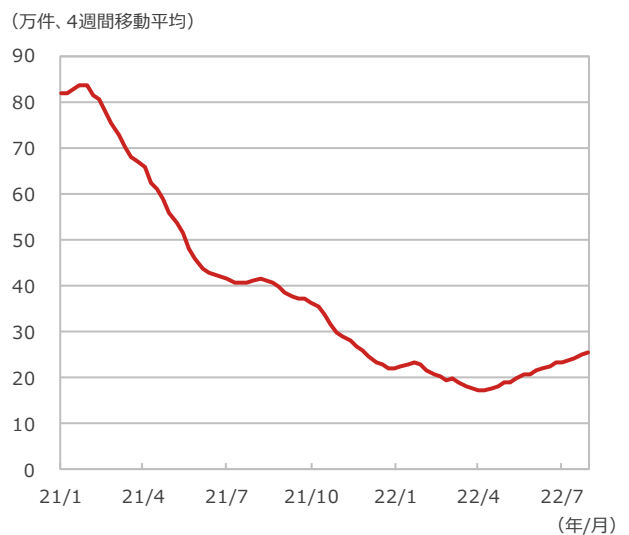
インフレ抑制のためには、労働市場の逼迫が解消されることが必要です。労働需給に変化の兆しはあるものの、失業率上昇には至っていないことから、市場では9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）において、大幅利上げの可能性が意識されています。その一方で、失業率の急激な悪化は景気後退を招くため、インフレを加速させない程度の失業率にソフトランディング（軟着陸）できるかどうか景気後退回避の鍵となります。

米非農業部門就業者数・失業率・平均時給の推移



期間：2021年1月～2022年7月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米新規失業保険申請件数の推移



期間：2021年1月2日終了週～2022年7月30日終了週、週次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	8月10日	米消費者物価指数 (7月)
	8月17日	米小売売上高 (7月) 7月のFOMC議事要旨公表